

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 あきは )

事業所番号	0691900096		
法人名	社会福祉法人双葉会		
事業所名	グループホーム桜の里双葉		
所在地	南陽市柗塚1632-19		
自己評価作成日	令和2年 2 月 26 日	開設年月日	平成 29年 4月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念でもある「家庭的で思いやりのある介護サービスの提供」

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	令和 2年 6月 4日	評価結果決定日	令和 2年 6月 15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

重点目標として「ゆったりと過ごせる温かい家庭的な環境を提供するとともに、利用者一人ひとりの立場に立ったその方が望む生活を支援する」ことを大切に、職員全員で取り組んでいる。新たに24時間シートを取り入れ、利用者深くかかわり生活パターンを把握し、生きがいや役割、楽しみごとなどを大切に職員が共有しながら家庭的な生活ができるよう努力している。24時間シートの導入や昨年の課題である理念の構築や家族との交流など、問題意識をもって積極的に取り組み、サービスの向上に繋がるよう努力している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、実践につなげている。		法人の基本方針をふまえて重点目標を作り、見やすい場所に掲示し職員が共有しケアに繋げている。昨年の目標達成計画に従い事業所独自の理念の作成に向け、職員間で一人ひとりに寄り添い利用者の望む暮らしを支援することを基本に話し合いが行われている。	職員間で意見を出しながら、地域密着型サービスの意義をふまえた理念の作成に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様がなじみの店に出かけるよう、機会を設けている。以前住んでいた地区の方の面会もみられている。		隣接する施設と共に、中学校のコンサートや小学校の介護サークル、保育園児との交流など地域とつながる機会を大切にしている。隣の公民館での行事を覗きながらの触れ合いも行われている。オレンジカフェでは地域住民とのかかわりの中で、高齢福祉について地域への情報発信や認知症に関する理解が深まるよう努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接する施設とオレンジカフェを開催している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	挙げられた意見を、利用者様の生活の質の向上に活かしている。		有識者、地域住民代表、家族代表、市職員と2か月に1回、隣接施設と合同で開催されている。事業所の状況報告や研修の成果、行事等の取組について話され意見等頂いている。地域からは畑作業についての提案などがあり、サービスの向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	都度、相談を行なっている。運営推進会議にも参加いただいている。		運営推進会議に参加を頂き、状況等を理解して頂いている。利用者の個別の問題等は、窓口と直接やり取りし、協力関係を大切にししながら、問題解決に向け努力している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>身体拘束は行なっていない。危険な行動が予測される利用者様については、定期的な見守り、コールセンサー等を活用し安全に配慮している。</p>	<p>法人の研修やマニュアル等を通して、職員に周知している。管理者等は普段のケアの中で言葉使いや対応など不適切なものがあれば、その都度話し合い注意している。無断で戸外に出かけるなど、危険に繋がる行為には、その原因や理由を検討し、職員が連携し、寄り添いながら見守り、一緒に出掛けるなどしながら、安全を確保し、鍵をかけないで過ごす工夫や不適切な対応の無いよう努力している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>日頃のケース記録、職員ミーティング等で虐待が行なわれていないか確認している。</p>	/		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>制度を使う機会がないため、活用するまでには至っていない。</p>	/		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者様、ご家族へ説明し不明な点がないよう配慮している。</p>	/		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族の面会時、または電話等で相談している。</p>	<p>昨年の目標達成計画のとおり、家族との関わりを大切にし、家族と芋煮会を行い交流の機会を作っている。職員も普段から意見等表しやすい関係を作ることが心掛け、積極的に家族と関わり信頼構築に努力している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日頃のミーティング等で意見を挙げてもらっている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの意欲向上を図るため、勤務条件や環境について、代表者とも相談している。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に基づき、職員研修を実施している。また、日々のミーティング、会議等で訓練を行なっている。	法人と部門、事業所で年間計画を作り学ぶ機会を確保している。事業所独自では緊急救命や事故事例等の研修が行われている。法人では職歴ごとの研修が計画的に行われスキル向上に活かされている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近隣の施設とは、電話や面談で交流を図っている。今後は関係機関の会議等にも出席したい。	近隣の施設のとは時宜に応じた交流が図られている。	地域の中の同業者との交流の拡大のため、ネットワークへの積極的なかわりを今後期待したい。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様ご本人に関する情報を収集しながら、かわりを持つようにしている。日頃から利用者様のお話を伺い、信頼関係の構築を図るようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との面談で、不安や要望がないか伺う機会を設けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	都度、必要なサービスがないか見直しを図っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が主体となり、職員は支える立場である認識を持ち接している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や行事に参加いただき、一緒にかかわりを持っていただくよう配慮している。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様ご本人の意向を尊重し、なじみの皆さんとの関係を継続している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、利用者様同士でのかかわりを促している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実施できなかった。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様お一人おひとりとかかわりを持ち、意向を尊重するよう努めている。	普段のかかわりや家族からの情報を基に一人ひとりの暮らし方の希望を把握している。必要な利用者には24時間シートを新たに取り入れ、職員全員が記入することで、深くかかわり小さな気づきを大切にして、より本人本位に思いや意向の把握ができるよう取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際に、ご家族から生活歴、生活に対する意向など、情報収集を行なっている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は日々観察を行ない、記録物、ミーティング等を活用し、情報の共有を図っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日モニタリングを行ない、利用者様ご本人の状態を確認している。状態に変化がある場合は、計画の見直しを検討している。	毎月サービスの実施状況の把握と計画の評価が行われ、6か月毎見直しが行われている。必要な利用者には24時間シートによる、利用者の暮らしへの意向等が職員から提案され家族等の意見を踏まえ、現状に応じた計画の作成が行われている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の状態を観察し、気づいた点があれば職員ミーティングなどで、意見交換を行なっている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様のご自宅近辺の方々に連絡を取らせていただき、交流する機会を設けている。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医に継続して受診いただいている。定期受診ごとに利用者様の状態を報告し、指示を受けるようにしている。	受診時連絡表により、事業所内での状況が医療機関に報告され、受診結果が記載されることで、医療機関、家族、事業所三者で情報が共有され安心して医療が受けられる体制ができている。かかりつけ医は、継続され連携が図られるよう努力している。原則は家族による通院であるが、状況に応じ事業所でも支援している。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医院の看護師へ相談し、健康観察を行なっている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院と連携を取り、退院後の受け入れについて協議している。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、ご家族と相談を行なうよう心掛けている。事業所でできること、できないことはあらかじめ説明を行なっている。ご家族によっては理解に差があるため、繰り返し説明を行なうケースもある。	看取りへの対応はしていない。早い段階から事業所で出来ること出来ないことが説明され、状況に応じて繰り返し話し合い、方針が共有されている。		
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備している。急変時の対応については地域の看護師を招き、研修を実施。シミュレーションについては、なかなか実施できていない。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施のほか、市主催の水害対策の訓練に参加している。	緊急時対応の研修が行われている。事業所単独で年に2回避難訓練が行われている。市主催の水害訓練にも参加している。隣接施設と共に備蓄等も用意されている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の立場に立って、言葉がけや対応を行なっている。	「利用者の一人ひとりの立場に立ったその方が望む生活」を支援することで一人ひとりの人格を尊重している。普段のかかわりの中で不適切な声掛けや対応の無いよう、職員同士注意し合っている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様お一人おひとりに合わせ、意思決定ができるようかかわっている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースで、過ごしていただくよう心掛けている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選んでいただくようにしている。整容もできる限りご本人に行なっていただくよう働きかけている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の嗜好を把握し、好みのものを召し上がっていただくよう、工夫している。調理へ参加いただき、楽しみを感じていただくよう働きかけている。	職員は普段の会話の中から嗜好を把握し献立に活かしている。三食事業所内で調理し、出来る方にはその過程に加わって頂き、家庭的な食事になるよう支援している。行事食や誕生会、出前、おやつ作りなど、食事のアクセントを付け、食事が楽しみなものになるよう工夫している。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を観察し、不足になっていないか観察を行なっている。不足が心配される利用者様については、補助食を検討を行なっている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいの支援を行なっている。夜間は義歯洗浄の支援を行なっている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を作成し、個々人の排泄のパターンを把握し、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。	排泄表により排泄リズムの把握を行い、適時の声掛け誘導により、なるべくトイレでの排泄ができるよう支援している。介護計画に位置付け、評価を繰り返しながら、自立に向け支援している。		



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を防ぐ食材を取り入れている。また、可能な限り活動の機会を設けて改善を図っている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	お一人おひとりの入浴日は決めず、声がけし希望のあった方に入浴してもらっている。	入浴日は決めず、希望を優先して支援している。入浴を好まない方には、声掛けや誘導を工夫し、清潔が確保できるよう支援している。季節のかわり湯などを取り入れ、入浴を楽しむことができるよう工夫も行われている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの体力、体調に合わせて休息をとっていただいている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、効果を把握し、状態の観察に当たっている。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割や楽しみを持っていただくことができるよう、お一人おひとりの興味、関心を把握するよう心掛けている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お一人おひとりの希望を伺い、個別に対応できるよう配慮している。	花見など季節の行事としてのドライブや、公民館での行事、隣接施設の行事への参加、日常的に畑、ごみ捨て、散歩など戸外に出かける機会を作り、外出の機会を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金を活用し、ご利用者様がお金を使うことができる環境を整えている。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様から希望があれば応じている。手紙、荷物が届いたときは、ご利用者様と一緒に返事をする機会を設けている。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や明るさの調整、清潔に努めている。季節に合わせた装飾、雰囲気を作り、快適に過ごしていただけるよう努めている。	居間は明るく、温度や湿度を快適に管理されている。テーブル・椅子・ソファが置かれ、それぞれの居場所ができています。季節の飾りつけや思い出の写真が飾られています。ゆったりとして、利用者それぞれが思い思いに寛げる空間である。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の希望に応じて、対応できるよう配慮している。		
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談しながら、自宅と同じような環境を提供するよう心掛けている。	従前と変わらない生活とするため、馴染みの身の回り品を持ち込み、また、楽しい思い出の写真や張り紙作品で壁面を飾るなど、それぞれの個性が感じられる居室となるように工夫されている。清掃にも配慮されている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々人の能力を分析し、ご自分で安全に活動できるよう環境整備に努めている。		